

# 同じ形で別の部品

この項は、「関西漢字教育サポーターの会」2019年4月13日の例会において筆者が発表した内容を、事後に加筆修正したものです。

先に、このサイトに「同じ形で別の漢字」を掲載し、「一つの漢字全体ではなく、その中の構成要素が衝突を起こしている例ははるかに多いと思われる。(中略) 漢字を字体から分析する場合、構成要素の持つ意味を誤解しては結論を誤るので、筆者はこうしたものについても事例を集め始めているが、(以下略)」と書いた。また、本稿と同時に掲載した「漢字部品字典構想」の中でも、現在は同じ形になっていても成り立ちが異なる部品が多数あり、注意が必要だと書いた。このページでは、そうした「成り立ちが異なって形は同じ」という部品について、その一端を、筆者自身のメモという意味も含めて、書き留めていこうと思う。その意味で、人様にお見せするほど形式的に整ったものではないが、ご容赦いただきたい。なお、現在のところ、康熙字典の部首のうち該当するものを調べている段階で、決して全体を網羅したものではないことをおことわりしておく。

漢字及び部品の起源については、主として、白川静著「字統」(平凡社)によった。また、必要に応じて旧字体以前の字形を入れた。甲は甲骨文、金は金文、篆は小篆、無印は康熙字典体を示す。

リンク [「同じ形で別の漢字」](#)  
[「『漢字部品字典』構想」](#)  
[「漢字の書架」へ戻る](#)

部品 (現代型)	旧字形 (康熙字典)	部首名 (MSIME)	部内の字の例 (部分けは康熙字典。常用漢字は新字体。書体はMS明朝)	その他の字例	備考
匚	匚	はこがまえ	匠匣匡匱	柩	MSIMEでは、はこがまえは3画(康熙字典では2画)
	匚	かくしがまえ	区匹医匿	醫堰	MSIMEでは、区・匹・匿・医などは「はこがまえ」になっている。區はかくしがまえ。
	匚	たくみ	巨		MSIMEでは、巨は二部
	その他		臣		

注 巨(康熙字典で 巨)は取っ手のある矩形の定規。「矩」の金文 𠄎 を見るとよくわかる。

人	人	人部 ひとがしら	介今令企倉余傘侖僉 人 診彡		
		(小篆)	介今令企倉余 傘 侖 僉 人 診 彡		
		その他	食会合舍命金幹		食は食部、會は日部、合・命は口部、舍は舌部、金は金部(康熙字典)だが康熙字典に載せられた字形はすべて「ひとやね」
		(小篆)	食 會 合 舍 命 金		
	入	いりがしら	全 兪 入 輸愉癒栓	IMEでは全はひとがしら	
		(小篆)	全 兪 𠄎 <sup>甲</sup> 入		

注 この部品については、下段に説文解字の小篆を掲げている。康熙字典で人部としているものも、小篆を見れば人とは無関係と分かるものが多い。

赤色のものは、説文解字で「人(シュウ)」に従う、あるいは人の声とされている。食は食の省に従う。命は令に従う。余は舍の省に従う。金は今が声符。人は集まること。説文では人は入と一に従うので、字形は入りがしらと同じになるはずだが、康熙字典では人は人部とされており、表内の字で入部となっているのは全と兪のみ。

字統では、食會合の人は「ふた」。今は全体が「ふた」。傘令の上部は冠。余金は余の最後の二画のないもの(把手のある針器)に従う。傘令は全体象形。命は令に従う。金は全体が象形(銅塊などを铸こんだ形)。幹の初文は軛で旗竿に吹き流しをつけた形。

説文解字で、診は彡声、彡は人声。字統も同様。彡は髪の毛の多い人の象形




全は、説文では「従入従工」、字統では佩玉の形。

凡	凡	凡部 つくえ かぜかんむり	凰処𠄎		IMEでは2種に分かれ、凡処はつくえ。康熙字典では同種
			凡	風鳳	凡(盤のかたち)を声符とする【字統】

注 説文で、凡は二部、風は風部で従虫凡声、鳳も従鳥凡声。

処の康熙字典体は處。説文では処を正字としている。几部。

凡の甲骨文は 𠄎 で、これ以上分解できない部品と思われる。

部品 (現代型)	旧字形 (康熙字典)	部首名 (MSIME)	部内の字の例 (部分けは康熙字典。常用漢字は新字体。書体はMS明朝)	その他の字例	備考
艸	艸	くさかんむり	芳芽英草華蓄薄薦藩藁		
			若  甲		巫女が両手をあげて舞いながら神に祈り、神託を求めている形。【字統】
			萬  甲		虫の形。
	蔑  甲 藁				
𠂔				夢	

注 振り上げた手(若)やサソリのような虫のはさみ(萬)、眉の呪飾(蔑藁)が草冠の形に変化した【字統】。

「甲骨文字辞典」では、蔑や夢の上部は眉を強調した形とする。両者とも、夢から夕を除いたものが一つのまとまりであり、字統ではこれは「寛」の旧字体 寛 からうかんむりを除いたものという。

罒	罒	罒部 あみがしら	罍罪罍罍置罍羅羅罍罍罍	罍	
	罒	罒部 よこめ	罍罍罍	德聴夢蔑藁	罍の上部は獸頭。【字統】
	罒			寧	

注 獐猛の獐は常用漢字ではないので、旧字体のまま皿に従う。

月	月	月部	有朋朗望朦朧	明	
	月	つき	朕朕 服 服 朝 朝	輸癒兪勝前	もと「舟」のかたち。朝の月はつき。他の月は舟だが、盤のかたちを表す。【字統】
	月	肉部 にくづき	育肥肴肺胆膽胡脅膨朧		
	𠂔			青青晴静	元は「丹」で丹を採取する井戸の形【字統】

注 康熙字典では、空の月も舟由来の月も同じ月部に配されているが、巻頭の「辨似」のページでは区別されている。

有は現在では肉月説が主流。

朋は貝を綴ったかたちで、月とは無関係(字統)

朝の月は、康熙字典では舟月だが、字統及び甲骨文字辞典は「つき」だとする。

朧は、月偏と肉月と両方の字が存在する。肉月の朧の意味は「太ったさま」。

胡は牛のあごの下の内(説文)、胆は肌脱ぐこと(集韻)。胆囊の胆は旧字膽。

門	門	もんがまえ	開閉間関閥		
	𠂔	とうがまえ	闘 鬪		𠂔 門甲骨文。いかにも戦っている

彳	彳	にすい	冷凍准凄冶		
	彳	に		次諮姿	次 次は欠部で声符二。
	彳	水部 さんずい		盜 盜	次 漢本字(集韻)


注 次 は人が口を開いてよだれを垂らしている形。盜は血盟の盤によだれを注いで盟誓を破棄すること【字統】。

殳	殳	るまた	段殷殺殼殿毀毅毆	毅投設	殳は手に杖などの武器を持っている形
	殳			没歿	殳は人が水没すること【字統】。

注 殳を部品とする字は会意が多い。殳(シュ)が声符となることはないようだ。毅-禾(カク)を要素とするものに毅、殼があり、旧字体はワ冠の下に線が一本ある。

部品 (現代型)	旧字形 (康熙字典)	部首名 (MSIME)	部内の字の例 (部分けは康熙字典。常用漢字は新字体。書体はMS明朝)	その他の字例	備考
土	土	つち	坐圭垂埜執基報塞		
	土			走𠂔 赤去𠂔	土の部分は人の姿(大)が変化したもの。
	土			幸牡	

注 執報は幸の中の土が部首となっているが、幸の部首は干。

幸の全体は手かせの形。牡の土はオスのシンボル。甲骨文 

夂	夂	ふゆがしら	夆夆	各冬	
	夂	すいによ	夏夂夔	陵俊復慶愛	
	支夂	ぼくによ のぶん	夔		變 變 康熙 支部 言部

注 ふゆがしらは天から降下してくる(神の)足の形  (甲骨文)。名前に反して、冬はふゆがしらに属さず、小篆  以前から形も違う。

すいによは、後ろ向きの足あとの形【字統】。

ぼくによとのぶんは同じ部品とみなされる。

頁	頁	おのがい	頁顔頭頃頂順頌		
	頁	かい(+刀)	賴賴	瀨	刺+貝

注 おのがいは、頭上に呪飾をつけた人の側身形【字統】。

賴の右側の旧字体は刀+貝で、康熙字典では貝部に所属。全体で貝+刺(声符)という成り立ちである。

𠂔	𠂔	老部 おいがしら	老𠂔 考耄	孝	
			者者𠂔		
	𠂔		教教		

注 おいがしらは長髪の人の側身形で、長髪の垂れている形【字統】。

者は康熙字典ではおいがしらに属するが、上部は又枝を積み重ね、それに土を示す小点を加えた形【字統】。土垣の構造をいう字という。

教の旧字体左上の「𠂔」は屋上に千木のある建物の象形。「学」の旧字体「學」の上部と同源である。

参考・引用資料

康熙字典(内府本) 清、1716年[東京大学東洋文化研究所蔵]:PDF版 初版 パーソナルメディア 2011年  
 新訂字統 普及版第5刷 白川静著、平凡社 2011年  
 甲骨文字辞典 第2刷 落合淳忠著、朋友書店 2018年  
 説文解字 後漢・許慎撰、100年:下記「説文解字注」より  
 説文解字注 清・段玉裁注、1815年:影印本第4次印刷 浙江古籍出版社 2010年

画像引用元

甲骨文、金文、小篆 漢字古今字資料庫(台湾・中央研究院ウェブサイト)  
 康熙字典(内府本) 清、1716年[東京大学東洋文化研究所蔵]:PDF版 初版 パーソナルメディア 2011年